

発行：日本社会病理学会

事務局：〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34  
京都橘大学

TEL 075-574-4224 FAX 075-574-4122

URL <http://socproblem.sakura.ne.jp>

e-mail : [takahara@tachibana-u.ac.jp](mailto:takahara@tachibana-u.ac.jp)

郵便振替口座：00170 - 4-56341

編集責任者：高原正興（庶務理事）

### 【目次】

1. 大会の開催にあたって	2
2. 2015年度第31回大会のお知らせ	3
3. 編集委員会からのお願い	3
4. 2015年度第1回理事会報告	3
5. 会員コーナーⅠ（リレーメッセージ）	5
6. 会員コーナーⅡ（近況報告）	6
7. 新刊書の紹介	6
8. 会員異動	6
9. 事務局より	7

### 重要事項

1. 第31回大会は10月3日（土）4日（日）に岩手大学にて開催される予定です。
2. 学会事務局では宿泊の手続きは行いませんので、会員各位にてお早めにお願ひします。

## 1. 大会の開催にあたって

### ～「日本社会病理学会第31回大会」岩手大学へようこそ！

日本社会病理学会会員の皆様を岩手県へお迎えできることをうれしく思います。学会参加についてお迷いの方も再度ご検討下さい。大会プログラムも例年同様充実しており、岩手の食の恵みを盛り込んだ懇親会、沿岸被災地へのエクスカージョンの企画もあります。皆様のご参加が岩手の活性化につながります。

ところで、盛岡は東京駅から車で3つめと近いです（東京—大宮—仙台—盛岡）。岩手大学は盛岡駅から歩いていけます（徒歩 20 分、北上川河岸の遊歩道を歩くと気持ちが良いです）。もちろん、盛岡駅東口から岩手大学正門前方面へと向かうバス（松園方面行き）もあります。岩手県は自然も豊かで、また、この恵みをうけた食品生産がさかんです。海のもの、山のもの、里のものなど、豊富です。冷麺、ジャージャー麺、わんこそばも3大麺として名物です。

盛岡市は3つの清流が流れている水の都でもあり、水量も豊富で、水道の水がおいしいです。3つの川は、雫石川と中津川と北上川です。これらは途中から北上川に合流し、日本有数の流域面積を有する川として、宮城県より太平洋へと注ぎます。

岩手大学キャンパス内には、宮沢賢治が学んだ旧盛岡農林高等学校本館の校舎が博物館として保存され、教育用生物見本などが展示されています。学会開催中もオープンしていますので、お昼や休憩時間にご見学下さい。

岩手大学の目の前には、石川啄木が放校となった盛岡一高（旧盛岡中学）があり、市の中心部には、啄木がしばしば学校をさぼってたたずんでいた盛岡城跡（じょうあと）公園があります。城跡の本丸跡地には、南部中尉をたたえる銅像の台座があります。太平洋戦争中に軍需供出されたために、銅像なしの台座となり、戦時下の歴史を物語っています。

街並みに興味のある方には、鉾屋町の街並みがあり、また、神子田（みこだ）の朝市は全国的に有名です。上の橋、中の橋、下の橋がかかる中津川周辺のたたずまいは京都鴨川の風景を想わせ、散策の人気スポットです。

ところで、都鄙社会論からすれば、岩手県は首都圏の繁栄の対向にあります。食料生産している県が県民所得で最低ランクなのも、高度成長で日本が豊かさを追求した時代に岩手県の自殺率が上昇したのも、町村合併により基礎的自治体の職員が手薄化していったのも、さらには TPP 交渉が妥結すればまさきに打撃をうける県であることも、大都市の論理から導き出された不利益なルールをもたらされているといわざるをえません。

こうした中で、岩手県の最大の魅力は県民の人柄です。平和的で争いを好みません。私もこの岩手県に来てから、多くの方々の人柄に助けられています。復興関連の数々のプロジェクトを手掛けていますが、たくさんの精神的報酬を得ています。

（大会実行委員長 麦倉 哲）

## 2. 2015 年度第 31 回大会のお知らせ

第 31 回大会は、2015 年 10 月 3 日（土）・4 日（日）の両日、岩手大学にて開催されます。今年度のシンポジウムは、大会二日目の午後以下に以下の陣容で開催することとなりました（敬称略）。

### 「東日本大震災：記憶と未来」

司会 井上真理子（奈良学園大学）

1. 生きた証プロジェクトのもつ意味や意義  
一大災後の歴史的テーマは「すべての犠牲者と向き合うこと」—  
麦倉 哲（岩手大学）
2. 復興とボランティア（仮）  
関 嘉寛（関西学院大学）
3. 復興とボランティア（仮）  
菅 磨志保（関西大学）
4. コミュニティと復興—スマトラ地震と東日本大震災の比較から考える—  
田中 重好（名古屋大学）

また、初日の 10 月 3 日（土）の午後には、自由報告部会に続いて「東日本大震災」特別報告部会が、「東日本大震災状況からみた社会の脆弱性とその克服課題」のタイトルのもと、高松洋子（岩手大学）、畠正機（花巻市役所）、麦倉哲（岩手大学）の 3 名の登壇者に司会・横山実（國學院大学）という陣容で開催されます。さらに、10 月 4 日の午前中には、若手を中心としたテーマセッション「第 30 回大会企画『社会病理学会の 30 年』を若手会員はどう捉えたか」が、朝田佳尚（京都府立大学）、藤原信行（立命館大学）、中森弘樹（日本学術振興会）、中西真（立命館大学）、竹中祐二（京都府立大学）の 5 名（司会・朝田佳尚）によって企画されています。

シンポジウム、特別報告部会、若手のテーマセッションに加え、今回は学会初めての試みとしてエクスカッションも組み込まれることになりました。会員の皆様には是非大会への積極的なご参加をお願い申し上げます。

（研究委員会委員長 進藤雄三）

## 3. 編集委員会からのお願い

現在、機関誌『現代の社会病理』30 号の査読に目処が付き、10 月の大会に間に合うように編集作業が進行中です。8 月から 9 月にかけて、印刷所から校正等の連絡が入りますので、執筆の先生方ご協力よろしく願いいたします。

（編集委員会委員長 畠中宗一）

## 4. 2015 年度第 1 回理事会報告（抄録）

1. 日時:2015 年 6 月 21 日（日）14:00~16:40
2. 場所:中央大学後楽園校舎 6701 教室
3. 出欠:出席者 10 名（朝田佳尚、井上真理子、清水新二、進藤雄三、高原正興、畠中宗一、松下武志、矢島正見、山本努、横山実各理事）、議長委任 2 名で定足数を満たした。

#### 4. 議題

##### ①第31回大会プログラム案の件

進藤研究委員長より第31回大会プログラム案について提案があり、シンポジウム（東日本大震災：記憶と未来）、テーマセッション1本（第30回大会企画「社会病理学会の30年」を若手会員はどう捉えたか）、自由報告部会に加えて、「東日本大震災」特別報告部会の組み方について検討の依頼があった。協議の結果、この特別報告部会については、横山会長が司会を担当して、麦倉大会実行委員長他2名程の報告者を組織することとした。なお、盛岡における開催のため、非会員のシンポジストの旅費&宿泊費・謝金について協議し、その予算の概算額を決定した。また、被災地視察エクスカージョンの申込み状況について確認し、催行可能と判断した。

##### ②機関誌『現代の社会病理』第30号編集の件

島中編集委員長より機関誌『現代の社会病理』第30号の編集状況について説明があり、自由投稿論文は4本で現在再査読中であることを確認した。

##### ③学術奨励賞の選考の件

高原庶務理事より、本年3月末までに研究奨励賞自薦1件、出版奨励賞他薦1件の応募があり、6月6日に選考委員会（佐々木嬉代三委員長）が開催されたことが報告された。選考の結果、同委員会推薦として研究奨励賞1名（廣末登会員）の授賞が選考委員会から推薦され、これを受けて、理事会として同会員の研究奨励賞の授賞を決定した。なお、不採用の場合の開示請求のあり方について意見交換があり、現行通りとすることとした。

##### ④入会・退会希望者の承認の件

1名の入会申し込みと2名の退会希望を承認した。また、高原理事より、会費納入の催促の結果をふまえて、5年間長期未納の会員について報告があり、協議の結果、該当者9名を退会処分（会員資格喪失）とすることが承認された。

##### ⑤終身会員申請者の承認の件

高原庶務理事より、清田勝彦会員から終身会員の申請があったことが報告され、同会員資格を満たしていることを確認して承認された。

##### ⑥次回理事会の日程・会場の件

2015年度第2回理事会は10月3日（土）11時より岩手大学において開催することを確認した。

##### ⑦学会ニュース79号の編集の件

高原庶務理事より同ニュースの編集内容と日程について報告があり、これを承認した。

##### ⑧犯罪学会関連ネットワークの大会合同開催の件

横山会長より、同ネットワークの事務局を今年度に本学会が引き受けているが、2017年秋に合同学会大会を開催する件について意見を求められているという報告があった。開催時期の調整、参加費の統一、本学会が参加することのメリット等について種々意見交換を行った結果、共同開催を承認することとした。

#### 5. 報告

①庶務部（朝田理事）から学会HPの現況について、特に問題はない旨の報告があった。

②会計部、研究委員会、編集委員会、渉外・広報委員会から特別な報告はなかった。

③事務局より、当日現在の本学会の会員数は182名であることが報告された。

④高原理事より、本学会編『関係性の社会病理（仮）』の出版計画について報告があった。

⑤事務局より、第12回「日本学術振興会賞」の受賞候補者の推薦が求められた件について、本学会の出版奨励賞を過去に受賞した若手3名を学会推薦したことが報告され、横山会長より、今後も同じ基準で申請することが提案され、これを承認した。

（庶務理事 高原正興）

## 5. 会員コーナー I (リレーメッセージ)

「社会学と社会病理学の基本的視角をめぐって」

竹中祐二 (京都府立大学大学院)

大学院に進学してから「社会学の研究をしています」と自己紹介をする度に、「心理学ではないのですか」と返されることが多いのは今もあまり変わっていませんが、「それは社会学とは何か」を分かり易く説明することに、昔から多くの先達も悩まされてきたということを知り、少しは安心しつつも、改めて「社会学とは何か」、「社会とは何か」という原初的な問いに向き合う日々です。

私は法学部出身ですので、社会学という科目を受講して、一から基礎知識を積み上げるというトレーニングを受けてきてはいません。幸い、私には勿体ないことこの上ない恩師に恵まれたおかげで、知らず知らずの間に社会学的思考様式を教えていただいた、自分にも植え付けられてきたということに、ようやく気づき始めたところです。今もって「分からない」と胸をはって言うようなことでもありませんが、自己紹介をする度に、あるいは、非常勤講師として学生の前に立つ度に、「社会学とは何か」を突き詰めて考える態度が、むしろ良い方に活かされているのではないかとも思います。残念ながら現状では成果が出ていませんが、分かり易い言葉で「社会学とは何か」、「社会学教育をいかに展開するか」を説明できることは、きっとリクルートにおいても役立つものと信じています。

さて、「社会学とは何か」と同じかそれ以上に、「社会病理学とは何か」という難問にも向き合う日々が続いています。対象の固有性や方法論の固有性といった視点から、こちらから古くから議論が続けられていますが、若手のささやかな野望として、この営みの一端でも担えたら幸せだと思っています。就職のためには一つでも多くの業績が必要ではありますが、研究者として独り立ちするにせよ、教育者として学生の前に立つにせよ、業績主義的志向だけではすぐにメッキが剥がれて長続きするはずがありません。興味を持って観察対象に接近する際に、どのようなアプローチを取るべきか、本質論を疎かにはできません。

目下の関心事としては、大学院生時代より実践にも努めてきた更生保護ボランティアである BBS 会のあれこれを調べつつ、聞き取り調査なども行っています。何を逸脱行為として位置付けるかということについて、犯罪・非行ほどコンセンサスをもって受け入れられる現象もありますが、一方で、更生保護の分野においては、善／悪や正常／異常の間に大きな揺らぎが生じ、かつ今日その揺らぎは大きくなっています。私自身が活動実践を行っていることも相まって、学術的貢献と実践現場との架橋にも大いに興味があります。シャープな検討には至っていませんが、更生保護という分野に対して社会病理学がなし得る貢献は極めて大きく、また逆に、社会病理学という分野に対して更生保護がなし得る貢献も同じく極めて大きいものと考えています。

今後の研究キャリア形成においても、社会病理学研究それ自体を洗練させることにおいても、非常に素晴らしい研究対象を得ることができたと思っていますが、自分なりの悩みや迷いに対する回答をクリアにするには途方もない年月がかかりそうです。せめて研究活動の集大成に何か形として残せると良いのですが、私の能力ではあまり自信がありません。会員各位の温かいご指導をいただけますようお願い申し上げます。筆をおくことといたします。

## 6. 会員コーナーⅡ（近況報告）

○石井智之会員（法務省法務総合研究所）

(1)最近の研究テーマ・関心事

法務総合研究所研究部において『平成 27 年版犯罪白書』の作成に邁進中。まもなく現場復帰する保護観察官としては、刑の一部執行猶予制度の実施体制の整備と再犯防止施策をいかに推し進めるかが気になっているところです。

(2)著書・論文等

2014「保護観察停止中の者を引致し仮釈放申出をした事例～保護観察官高等科研修における事例研究から～」『研修』790, 誌友会

○石飛和彦会員（天理大学）

(1)最近の研究テーマ・関心事

ポスト学校化社会からふりかえる視点で、「学校のなくなる風景」の中に現在の学校問題を描くこと。

(2)著書・論文等

2006「学校問題と逸脱 — ポスト学校化社会と管理社会論」 稲垣恭子（編）『子ども・学校・社会 教育と文化の社会学』pp. 192-213. 世界思想社

2012「『いじめ問題』にみる教育と責任の構図 [特集 教育と責任の社会学]」『教育社会学研究』90 : pp. 83-98.

○井上真理子（奈良学園大学）

(1)最近の研究テーマ・関心事

青少年の家庭内暴力に対する民間団体の取組みと家族への支援（平成 26～28 年度科研費による）

(2)著書・論文等

2015 橘木俊詔編『共生社会を生きる』共著、晃洋書房

2015「閉ざされた扉の陰で」『Becoming』34

2015「ファミリー・バイオレンスの臨床社会学」『奈良学園大学紀要』2集

## 7. 新刊書の紹介

\*以下の新刊書は理事会と事務局で入手した情報によるものです。  
廣末登著『組長の妻—中川茂代の人生』ハーベスト社 2015 本体 1,800 円

## 8. 会員異動

個人情報につき削除

## 9. 事務局より

1. 過去の「大会プログラム・要旨集」の収集について

事務局では、保管用と今後の学会ウェブサイトへの掲載のために、現在手元にない「大会プログラム・要旨集」のバックナンバーを探しています。会員の皆様の中で、下記の「大会プログラム・要旨集」をお持ちの方は、ぜひ事務局にお知らせ下さい。寄付あるいは一時的な貸与をお願いします。貸与していただいた場合は、複写した後にご返送させていただきます。

・1985～1988年（第1～4回大会）

## 2. 会費のお支払いについて

2015年度の会費の支払い用に同封の振込用紙をご使用下さい。また、2014年度以前の会費を未納の方も同封の振込用紙をご使用下さい。会費のお支払いの際は以下の諸点にご注意下さい。

- (1) 会費は7,000円です。ただし、「大学院に在籍する者の会費は、当該会員の申請により、理事会の定めるところによる」（会則第19条2）という規定にもとづき、大学院生の会費は5,000円として本人の申請によります。大学院に在籍する会員は、振込用紙の通信欄に、在籍する①大学院研究科の名称、②課程、③学年、を明記して申請して下さい。なお、申請は毎年度行って下さい。この記載がなく5,000円が振り込まれた場合は、2,000円不足として処理します。
- (2) 会則第19条1には、たとえば外国籍会員の経済事情等の特別な事情がある場合、理事会の議を経て会費を減免できるという規定があります。減免を希望する会員は、減免を申請する旨とその理由を簡単に記した書面を事務局までお送り下さい。理事会で申請が認められると、会費が機関誌代だけに減免されます。理事会の審議の結果は事務局よりお知らせします。
- (3) 2011年度から終身会員の制度が定められました。日本社会病理学会の通常会員歴が15年以上で70歳以上の方が対象となります。終身会費として5,000円の納入で、会員資格を継続することができます（ただし、機関誌1,500円は実費購入）。終身会員を希望される会員は学会事務局に所定の申請文書を提出して、理事会の承認を得る必要があります。
- (4) 会費を所属機関から直接お支払いいただく場合は、必ず会員の個人名を付記して下さい。個人名の記載がない場合、入金処理ができないことがあります。

## 3. 所属・住所の変更について

所属・住所などが変更になりましたら、必ず書面（はがき・ファックス・E-mail可）にて事務局までお知らせ下さい。

## 4. 入会申し込みについて

事務局では常時、入会の申し込みを受け付けています。学会ホームページ (<http://socproblem.sakura.ne.jp>) からダウンロードできます。なお、身近に推薦者がいない場合は事務局にご相談下さい。

以上